



S L Gの活動の様子



学校週5日制導入当時の体験学習



文化伝承館開館前の体験学習

第3の価値 伝え受け継ぐ人びと

ボランティアグループS L G

郷土資料館は貴重な歴史資料の保管や展示だけではなく、市民が参加することができる体験学習の場でもあります。

それを企画し、講師を務めているのが『郷土資料館ボランティアグループS L G』。平成5年に誕生し、学校の週5日制導入とともに、体験学習のメニューを充実させてきました。

現在もそば打ちや布ぞうり作り、包丁とぎ体験などを行い、講師が持つ知識や技術を市民へ伝えていきます。また、体験部門だけではなく、館内の展示解説を行う学芸部門が平成13年に誕生しました。

個人で来館した方への展示解説はもちろん、学校などの団体への案内も行っており、郷土資料館に展示されている資料を見るだけではなく、解説が加わることでさらに理解を深めることができます。

このようにS L Gの活動は、郷土資料館にとって無くてはならない魅力の一つとなっています。

恒例行事『わんぱくサムライ体験』毎年5月には『わんぱくサムライ体験』を行っています。

このお祭りは、開館10年目の平成3年の秋に行った『郷土資料館まつ

り』が、その後継となる平成13年からの『御衣黄まつり』と続き、平成14年から『わんぱくサムライ体験』として開催しているものです。

S L Gや登別伊達時代村、市民団体など、多くの人の協力により流鏝馬やスポーツチャンバラ、南京玉すだれの披露などさまざまな催しが行われ、訪れる多くの子どもたちはいきいきと楽しみながら、昔の文化に触れています。

郷土資料館では、このように地域の人から地域の人へ、歴史と文化が受け継がれています。

登別市の歴史を 未来へとつなぐ場所

郷土資料館は、市内外の多くの方の協力をいただきながら、これまでの登別を知る貴重な資料を保管・展示してきました。いまだに整理が追いつかないほど多くの資料には、登別の新たな発見が期待されています。また郷土資料館は、これから紡いでいく登別の未来を、さらに次の世代へとつなぐ場所でもあります。

登別市郷土資料館は、これからも市民にとって、かけがえのない『地域の歴史を未来へとつないでいく場所』であり続けます。

ぜひ登別市の歴史を未来へとつなぐ場所、登別市郷土資料館へお越しください。



平成22年度新資料『金成マツの名刺』



開館当初の展示『梶別鉦山』(左)、『明治大正の生活』

